
下らない若者と下らない警察

まなつか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

下らない若者と下らない警察

【Nコード】

N0496Y

【作者名】

まなつか

【あらすじ】

家の隣の空き地には毎日朝から晩まで少年等のたまり場となっている。弟はそのグループで恐喝にあつていて心の病を負ってしまった。そんなある日耐えかねなくなった私は包丁を手にして外へ飛び出したのだった。

午前8時17分。

またいつものあいづらがやってきた。家の横にある小さな空き地。カーテンを閉め切っている薄暗い部屋をふらふらと歩き、私はカーテンからそつとその様子を覗き見する。

「うはっはははは！　ざせーよもつとかっけーの買えよ」

いかにも「俺ら頭が悪いです。ごめんなさい、勉強できません」というような笑い声がする。私はそれを聞くたびに身の毛がよだつような思いを飲み込んでぐつと我慢していた。

「祐二……大丈夫？」

弟はもう4日も寝ていない。ストレスから来た不眠症だった。両親は共働きで私に学校を休ませて面倒を見させている。発熱もあるので風邪だと思っているらしい。

私がタオルで顔を拭いている間にも外からは不愉快な笑い声が聞こえてくる。

「えー祐二死んだのー、うわだっせ」

「最近みないと思ったらやっぱ死んでたか」

「うははは、代わりにパシリになりそうな奴いれっか」

「いーねー。そのあいづとか？」

頭に血が上っていた。

気がつくくと包丁を手にして外に出ていた。空き地に姿を現すと話し声がぴたりと止み、少年等はこっちを見ていた。

「あんたらのせえでうちの祐二が病気になるってんの知っててゆうとるんやろなあ？！」

「う……わ………」

少年等は普段絶対に見せないような表情を見せ、今にも逃げ出し

そんな体勢だった。

「殺すか？ 殺したつてもええんで」

「ご、ごめんなさい……」

一人が泣き出しそうな表情で謝ってきた。

「お前等は！？」

他の数人にも怒鳴る。

「ごめんなさい！」とみんな土下座をして謝った。

「わかったならもううちの祐二とかかわらんといってください。そんなでもうここで集まんのもやめてください」

私はそのまま家に帰った。

外はいつにないほど静かだった。

「祐二……もう悪いばい菌は消えたでな。安心せ」

弟の安心した穏やかな顔を見て私は勉強しようと二階に上がった。しばらくして玄関のチャイムが鳴った。さっきの今だからきくと彼らの親が謝りに来たんだろうと出ると――

「どうも、美代子さんですね。警察です。銃刀法違反の現行犯で逮捕です」

「……………」

言葉を失った。

少年等はずいぶんでもない仕打ちをしたのだ。反省なんてしていない。

彼らが捕まるはずなのに――

「話を聞いてください」

「なんでしよう」

「弟がその空き地で集まっている少年等に恐喝されて今、病気になるです」

「それとこれとが何の関係が――？」

「アホか！？　どいつもこいつも！　あいつらのせいで精神病患者
とるんや！」

「はあ……」

「朝から晩までがちゃがちゃうるさくて弟も一向によくならんや
！」

「ですから何故……？」

「もうええ、もうええわ。帰ってください。うちは弟の看病せなあ
かんで。親も不在なので帰ってくださいクソポリ公が！」

私はドアをがっとなめようとしたが――

「ですから、銃刀法違反の現行犯で逮捕です」

相手の方が強く、私は手に手錠をかけられ、為すすべを無くした。

「弟が――」

「知りません。親に後で連絡とるんで今は署まで」

「アホいわんといってください！」

「いいからこい！」

一喝されて私は断腸の思いでパトカーに乗せられた。

その後、弟の熱は40度を超えたらしい。

そのまま還らぬ人となった。

私は少年等を絶対に許さない。

警察も許さない。

心に復讐を誓ったのだった。

（後書き）

この物語はフィクションです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0496y/>

下らない若者と下らない警察

2011年10月30日12時03分発行